

日本語パートナーズ 在学派遣プログラム
シラバス

開講年度	2020
開講セメスター	秋セメスター
科目コード	021050
講義名・クラス名	特殊講義(言語教育科目)
担当教員	石村 文恵
履修の目安	プログラム受講条件に準ずる
授業のねらい	「同じアジアに暮らす人々が、お互いのことをよく知り合い、共に生きる隣人として共感や共生の意識を育んでいくための橋渡し役の一端を担う人材」(外務省URL参照: http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol136/index.html)として、日本語パートナーズの活動が期待されています。派遣先国で現地の日本語教師のアシスタントとして授業運営に関わる、また派遣先校で双方向的な文化交流活動を行う、といった活動を通して、自らの異文化適応能力の向上を図るとともに、お互いのことばや文化について深く考え、プログラムを通して学んだことを自分の言葉で発信できるようにしてほしいと思います。
到達目標	(1) 派遣前研修(「日本語パートナーズ」URL参照: http://jfac.jp/partners/overview/training/) ◎ 研修が終了した時点で、以下のようなことが身につくことを目指しています。 ・日本語パートナーズ事業の趣旨の理解と、“日本語パートナーズ”としての心構え ・派遣先で安全に生活するための安全管理、健康管理の知識と技術 ・“日本語パートナーズ”としての活動に必要な知識と技術 (2) 実習期間 ・派遣先で、現地に暮らす人たちの日本語や日本文化への興味を高め、理解を促進させる。 ・派遣先の国の言語や文化に対する理解を深める。 ・言語や文化背景の異なる相手とのコミュニケーション能力を高め、異文化に対する態度について考える。 (3) 帰国後 ・実習を通して派遣先で学んだことを、自分のことばで発信する。
授業方法	授業/実習
授業の概要	【派遣前研修】 派遣先で必要な知識と技術を身につけるために、以下のような内容で授業を行います。 ① インドネシア語 ② 日本語教授法、日本事情関連 ③ 一般講義 (東南アジアの歴史と文化、異文化コミュニケーション、ストレスマネジメント等) 【実習】 実習中は以下の活動を通して、ことばと文化を伝えることを実践します。 ① 現地の日本語教師が行う授業への協力 ② 授業の教材作成等への協力 ③ 授業や課外活動における生徒との交流(日本語での会話、文化活動への協力等) ④ 国際交流基金が実施する日本語教育事業への協力 ⑤ その他、現地要望に応じて、地域における日本語学習支援、日本文化紹介を通じた交流活動等 ⑥ 国際交流基金が実施する、各種広報活動への参加・協力 ⑦ その他、国際交流基金または派遣先機関が依頼する活動 【帰国後】 国際交流基金本部で行われる報告会で、現地での実習について報告します。
成績評価方法	P/F評価 月次報告書 30% 中間報告書 30% 最終報告書とAPU学内での最終プレゼンテーション 40%
学生への要望	(1) 留学や海外旅行と異なり、公務を行う立場であることを十分にわきまえ、自覚ある行動が取れること。 (2) 派遣先国への関心および基本的な知識を有していること。 (3) アジアの社会、文化を学ぼうとする好奇心と謙虚さがあること。 (4) アジアの人たちとの交流・コミュニケーションに情熱をもっていること。 (5) 現地の先生のサポート役として活動ができること。 (6) 厳しい環境の中でも生活できるバイタリティと柔軟性があること。
教科書	国際交流基金が別途指定する。
参考文献	国際交流基金が別途指定する。
備考	